



おさかな瓦版

No. 88

2019.3

シリーズ：エビ・カニ 第12回

ホツカイエビ





ふーちゃんのトピックス

サクラの名が付くさかなたち

ホッカイエビ

～アママ場で育まれる北の美味～

ホッカイエビ（1）は北西太平洋沿岸部の藻場に生息し、日本周辺では岩手県以北の太平洋側、オホーツク海沿岸および千島列島に分布しています。体長は12センチくらいまで大きくなります。ホッカイエビ漁業は北海道東部でさかんです。“ホッカイシマエビ”や“シマエビ”と呼ばれ、地元食材として愛されています。6月になるとホッカイエビ漁が始まります。


ホッカイエビは、えびカゴや打瀬網で獲ります。そのほとんどは、塩水でゆで、パック詰めしてから出荷します（2）。

ホッカイエビは生息する藻場の色彩に合わせて体の色を変化させます。そのため、体の色は緑色をしていることが多いのですが、ゆでるとまっ赤になります。そして、ゆでると旨味・甘味ともにぎゅっと凝縮されてとてもおいしくなります。



1 ホッカイエビ



2 ホッカイエビをゆでて（左）、パック詰めして出荷します（右）

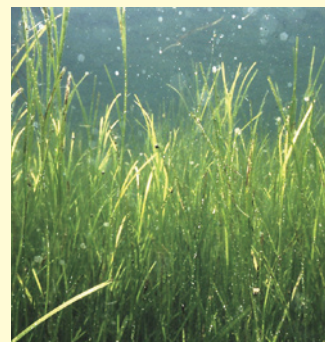


あんじいのワンポイントアドバイス

はは母なるアママ場!?

海にはえる草「海草」の一種であるアママが沿岸域の砂や泥の海底に群生してできる藻場のことを“アママ場”と言うのじゃ。ホッカイエビの幼生期や稚エビ期の生活場所であるアママ場は、ほかにも多種多様な生物を育てておるぞ。そして漁業を通じて、ひとびとのおおの恩恵を与えてくれておるのじゃ。近年、アママ場の機能が明らかになるにつれ、その重要性が見直されておるのじゃ。

あんじい：ありとあらゆることを知っているナゾのさかな仙人です



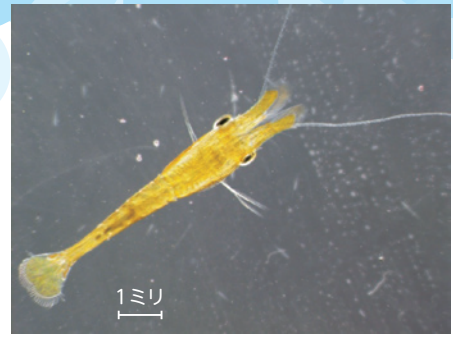
アママ



📷 3 アマモ場

ホッケイエビが生育するうえで欠かせないのがアマモ場（📷 3、📷 ワンポイント）の存在です。秋に産卵したメスは卵を舂までおなかに抱き続け、アマモ場まで移動して卵をふ化させます。ふ化した幼生（📷 4）はやがて稚エビに成長しますが、稚エビになってもさらばらくの間アマモ場で過ごします。小さなエビたちにとってアマモ場は外敵から身を守るのと同時にエサをたくさんとるのに好都合な場所なのです。

このホッケイエビもホッコクアカエビ（おさかな瓦版 No.84）と同じく、性転換します。1、2歳の夏にオスとして繁殖に参加したあ

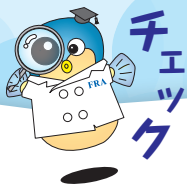


📷 4 ふ化直後の幼生

と、秋に性転換を開始し、2、3歳の夏にはメスとして繁殖に参加します（📷 チェック）。

北海道のホッケイエビの漁獲量は1998年をピークに年々減少し、2017年にはピーク時の約3分の1になりました。ホッケイエビは北海道の人々にとって大切な地域資源です。漁師さんたちはえびカゴの目合いや漁期について話し合い、地域ごとにルールを決めて操業しています。

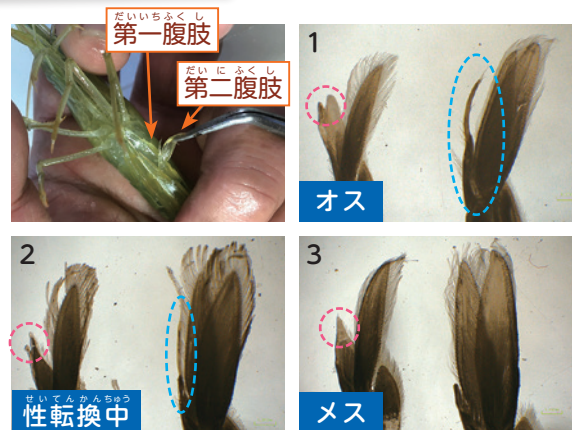
しかし、なかなか資源が回復しません。ホッケイエビの生態だけではなく、生息する環境の変化、そしてホッケイエビの漁業のあり方などを、さまざまな角度から研究する必要があります。（伊藤 明）



オスからメスへ性転換

第一腹肢の内肢の形と第二腹肢の雄性突起の有無で、オスとメスを見分けることができます。

オスは、第一腹肢の内肢が二股の形をしていて、第二腹肢には雄性突起があります。メスになると第一腹肢の内肢の形が変わり、第二腹肢の雄性突起は取れて無くなります。性転換が始まると体のつくりも少しずつ変化していきます。



1～3の写真は第一腹肢（左）と第二腹肢（右）
○は内肢、○は雄性突起。3のメスにはありません。



ふーちゃんのトピックス

Fuchan's Topics

サクラの名が付くさかなたち



春を代表する花“サクラ”。名前（標準和名）にサクラが入ったさかなたちの一例を紹介します。

サクラマス

海に下って回遊したものは成長すると、川を上って産卵します。海に下らず一生川で過ごすものや海に下る前のものはヤマメと呼ばれます。



サクラダイ

ほとんど市場には流通しません。おもにかまぼこの材料として使われています。



カスミサクラダイ

練り製品の原料にされますが、から揚げや天ぷらにして食べてもおいしいです。



サクラエビ

国内のほぼ100%が駿河湾で漁獲されます。



ほかにも イッテンサクラダイ、ボロサクラダイ、サクラテンジクダイ、サクラガイなどがあります。

正式な名前（標準和名）ではないけど、

桜が咲くころの
マダイも、桜鯛と
呼ばれているのよ。



マダイ



ふーちゃん



ふっくん

：あじい仙人のもとで修行している研究員です

かわらばん
おさかな瓦版 No.88 (2019年3月発行)

編集・発行：国立研究開発法人 水産研究・教育機構

質問の送り先・お問い合わせ先：広報課

〒220-6115 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-3
クイーンズタワーB 15階

TEL. 045-227-2600 FAX. 045-227-2702

ウェブサイト <http://www.fra.affrc.go.jp/>

さかなやエビ、カニなどの水産動物や海藻のことでわからないことがあったら、広報課までハガキを送ってね。〈聞きたいことの内容〉、〈学年〉、〈住所〉、〈名前〉を忘れずに書いてね。ふっくんが「なんでもコーナー」でお答えします。

表紙写真



ホッカイベイ



水産庁の主催する魚の国のしあわせプロジェクトに参加しています

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。